The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ロシア語の派生語と辞書
Author(s)	上原，順一
Citation	外国語教育のフロンティア. 2021, 4, p. 151-159
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/79367
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ロシア語の派生語と辞書

Russian derivatives and dictionaries

上原　順一

Abstract

This paper explores the definition of derivatives in Russian language dictionaries and demonstrates their usefulness from a practical and theoretical perspective, depending on level-based language learning. Several types of dictionaries — explanatory and derivational — were used to compare various descriptions. It has been argued that word derivation is sometimes clearly explained, while in other cases, explanations are disputable. Moreover, it has been indicated that disputable explanations could be a suitable teaching material for learners of comparatively high-level language.

キーワード：ロシア語、派生、語形成

1. 語形成とは

ここでは筆者がロシア語関連の授業で説明する語形成について、未解決と思われる課題や他に有用と考えられるメモを記すものである。

ロシア語の教科書『ロシアへの道 2』には、語根の概念が次のように導入されている。この教科書は A2 レベルの到達度を前提として書かれている（Антонова и др. 2018: 20）。

> 新しい語や表現をがんばって理解しましょう。
> 1. подмосковный город「モスクワ郊外の都市」— モスクワから遠くない都市、モスクワ近郊の都市
> a）語根 корень（下の語に共通する部分）を見つけてください。これらの語がどのような問いに答えるか、教えてください。
>
> подмосковный, Москва, москвичка, московский, москвич

「語根」корень は、当然のことながら、語学の専門用語であるが、ここではロシア語での説明があり、また教師からの解説もありうるので、学生にも十分理解可能であると考えられる。これらの語根は、（若干形態の変化はあるが）Москва「モスクワ」である。上の

問い「どのような問いに答えるか」は「誰？」、「どんな？」などであり、ここには品詞を答えさせる意図がある。ただ、学生の語彙理解には、いわゆる日本語訳が必要であろう。やや冗長になるが、実際の教材提示は

подмосковный　モスクワ郊外の
Москва　モスクワ
москвичка　モスクワ人（女性）
московский　モスクワの
москвич　モスクワ人（男性）

のようになる。

これらの語は、語形成、派生を手短にまとめるのにも適している。まず、語根を共通にもつ語が、形式的にも、意味的にもなんらかの変化をともなって、別の語に関連している様子がわかる。そして、そのあり方は、段階的であることが想像できる。それは

Москва -> москвич -> москвичка

のように示すとわかりやすい。ここで語形成の一般的な定義をみて、上の語彙との関連性をみよう。語形成とは何か、その説明には揺れがあるが、概ね、次のような記載がよく見られる。『現代ロシア語ハンドブック』（Краткий справочник ... 1989: 170）は語形成を次のように説明している。

> 語形成 словообразование：おなじ語根をもつ語から派生語（производные слова, дериваты）が形成されること（образование, деривация）。そして、この結果、派生語とその派生基盤（производящая база）のあいだに形式的・意味的関連が設定されること。

学習者に提示されているロシア語は、現代ロシア語であり、そのとらえかたは歴史的・通時的ではなく、共時的である。語が形成されるプロセス自体は共時的には確認しがたい現象なので、語形成の説明にありがちな「形成されること」なる表現には議論がある。この難点を補うのが説明の後半にある、「形式的・意味的関連が設定されること」なる文言である。この発想はすでに、八杉貞利・木村彰一著の『ロシヤ文法』に求めることができる（八杉貞利・木村彰一 1953: 193）。

… 語根を共にする語類の系統を確立することは言語史の任務に属するのであって、現代語の構成論においては単に現代人の言語意識による派生的関連を闡明するにとどまる。

現代ロシア語の語形成は、現代人の言語意識によって形式的・意味的関連が設定されることであると理解しても差し支えないであろう。

なお、派生関係をなす2つの語にはそれぞれ専門的な名称があるが、「派生元」、「派生先」という用語が直感的でわかりやすいと筆者は感じている。以下、これらも使うことにする。

教科書に掲載された例に戻る。「Москва モスクワ」以外の語と、それ以外の語に形式の点で、意味の点で関連性を求めることは十分可能である。派生元と派生語が共通する語根の意味と形式を保って、別の語ができていると考えるのは、自然である。ただ、実際には、いくつかの問題が生じている。項を改めて述べる。

2. 派生関係の認定

別の語になるが гостиница「ホテル」は、他の語から派生していると考えられるだろうか。意味的・形式的に関連のある語根をもつ他の語と、この語 гостиница には派生的な関連を求めることができるだろうか。この語を、ロシア語の解釈辞典（国語辞典）で調べると、おおむね次のような説明がみつかる。

辞書 БТС（Кузнецов 1998）
Гостиница:
Дом с меблированными комнатами（номерами）для временного проживания в нём приезжающих.

ロシア語学習者なら知っていそうな語 гость「客」は説明に含まれていない。これを見る限りは、гость -> гостиница という派生関係は、少なくとも意味的には成立しないと考えられる。もちろん、実際のロシア語では、これらの語は意味上のつながりをもっている。あるホテルの客室には次のような説明書があった。抄訳は著者による。

Уважаемые <u>гости</u>!
Для вашего комфортного проживания в <u>гостинице</u>, предлагаем вам ознакомиться с правилами проживания.

<u>宿泊客</u>の皆様へ

ホテルでの快適なご滞在のため、滞在条件をご確認することをお勧めします。

このように、派生関係を認定するために派生語を解釈辞書で見ても、その説明に派生元ないしは語根が含まれないことは、往々にしてある。これはロシア語に限った話でもないようである。ラエフスカヤは『品詞とフランス語の語形成』で、こう書いている（Раевская 1996:15）。

> 語の定義に派生元が含まれることは、派生関係の必須条件ではない。明らかに派生語としての性質をもつ語が、派生元へのよりどころなしに解釈されることがある。（中略）
> このような定義（解釈辞書では通常の方法）は、言語学者が派生語と派生元を区別する唯一の客観的な基準を奪っている。

ロシア語が母語ではない学生や研究者が語義を確認できる、頼りがいのある解釈辞書は、派生関係の認定には必ずしも有用とは言いがたいようである。

ロシア語語形成の記述としてはおそらく最大規模のチーホノフ著『ロシア語語形成辞典』ではどうか。ここでも、гостиница「ホテル」は、どの語からも派生していない語根語として扱われている（Тихонов 1990）。

しかしながら、この辞典が、この語も含めて гостиница「ホテル」、угощать「もてなす」などを派生語として記述していない点、語根語と考えている点については、モイセーエフが疑義を呈している（Моисеев 1987: 23）。

派生関係についての解釈は、母語話者であり、かつ、同じ分野の専門家であっても見解の相違が認められ、最終的な解決はされていないように考えられる。このあたりは、ロシア語を専攻とする学生にとっても難解である。ただ、日常的には露和辞典に頼っている学生たちが、ロシア語の解釈辞典に触れる良い機会であると思える。

3. 関係形容詞

冒頭に提示した語形成には、興味深い現象が見られる。それは、

> Москва — московский モスクワの, подмосковный モスクワ郊外の

である。形式的な基準では、Московский も подмосковный も、語根を共有しており、Москва との派生関係を求める基礎が見られる。問題は、意味的なつながりである。これらの形容詞は、露和辞典では「の」を使った訳語が掲載されているが、БТС などの解釈

にはこの語は掲載されていない。かわりに同類の語形成や派生語を観察しよう。

ロシア語における一連の形容詞には、関係形容詞とよばれる語群がある。主として接尾辞 -ный, -ский をともなうもので、辞書によっては、

Лесной「森の」к Лес「森」

のように記されている。見出しである лесной の意味は、元の名詞「森」から大きな意味が変わらずに派生しているので、それを参照するように促している記号である。ゼムスカヤは、この関係形容詞については、

形容詞によって表現される関係の特徴は文脈内でのみ具体化された意味をえる

と述べ、興味深い例として автомобиль の形容詞 автомобильный をあげている。

автомобильное колесо「車の車輪」
автомобильная дорога「自動車専用道路」
автомобильный завод「自動車工場」

これらはありふれた意味であるが、автомобильные деньги — 直訳すれば「自動車のお金」となる表現 — のように、「自動車を買うためにためていたお金」、「自動車を売ってえたお金」、「自動車の中で見つかったお金」、「自動車の中に忘れたお金」をも表現することがあるという（このあたり Земская 1973: 188）。

このように、派生元である名詞にさまざまな意味が付け加わって関係形容詞が派生しているが、その意味は場合によっては、かなりのバリエーションがあり、一義的に表現することが困難である。これが、

Лесной к Лес

の本質であるし、また露和辞典に見られる「森の」といった訳し方も、関係形容詞の多様な意味をまとめて表現するための、ひとつの方策であると考えられる。

教室では、この関係形容詞を導入することで、いわゆる普通の形容詞（性質形容詞）との対比も行いやすくなる。次の例を参考にしていただきたい。

грязь 泥 — грязный きたない（性質形容詞）

грязь 泥 — грязевой 泥の（関係形容詞）

время 時 — временный 一時的な（性質形容詞）
время 時 — временной 時の（関係形容詞）

また、派生語としての形容詞に両方の用法がある場合は、訳出に注意が必要で、学習者のレベルによって適切な助言を与えることが好ましい。

（книга 本 -> книжный について）
книжный стиль 文語的な文体
книжный магазин 本屋

（солнце 太陽 -> солнечный について）
солнечная комната 日当たりの良い部屋
солнечная система 太陽系

この関係形容詞については補足して良いことがらがある。それは語形成のむずかしさのひとつ、不規則性である。学習者が観察したばかりの派生が、形を変えて別の語に見られることがたびたびある。その場合、語形成の規則を覚えるよりも、現実には語彙を個別に学習する方が効率的であろう。次の例を見よう。これは左側の語が地名、右側がその形容詞である。

Китай 中国 — китайский
Канада カナダ — канадский
Корея 韓国・朝鮮 — корейский
Япония 日本 — японский
Англия イギリス — английский
Америка アメリカ — американский

接尾辞が単純に付加するのは китайский のみであり、それ以外は程度の差はあれ、初歩の学習者には注意を促す必要がある。最後の例は、地名の名詞に付く接尾辞が -ский の亜種である -анский なのか、付加しているのは -ан-（接中辞）と -ский なのかは、それぞれを支持する立場があり、議論がある。前者はゼムスカヤなど（Ефремова 1973）、後者はエフレーモワ（Ефремова 1996）など。しかし、この説明は語形成の分野に特化した授業で

行うだけで十分であろう。

4. 補充形式

実際のロシア語運用に役立つ知識は、本来的な語形成だけではなく、広義の語形成も含まれる。これは、語と他の語の関係が、語根という基盤こそないものの、意味的な関連があり、なおかつ、通常は語形成で表現されうる現象のことである。

次の語はロシア語試験の科目名（右側）と、その元になっていると考えられる活動を表す動詞（左側）である。

писать 書く — письмо 書くこと
говорить 話す — говорение 話すこと
читать 読む — чтение 読むこと
слушать 聞く — аудирование 聞くこと

聞くことの試験、普通に言う「リスニング」の説明には слушание なる語が用いられるときがあるが、科目名としては аудирование のほうが一般的である。письмо, говорение, чтение は明らかな派生語であるが、слушать — аудирование が派生関係にあるとは考えにくい。いわば不規則である。語根を共有しない語形成をアプレシャンは супплетивное словообразование（補充語形成）となづけている（Апресян 1974: 170）。

видеть 見える — зрение 視力
（хорошо видеть よく見える = хорошее зрение よい視力）

говорить 話す — речь ことば
（говорить бегло すらすらと話す = беглая речь 流ちょうなことば）

казаться 思える — впечатление 印象
（Мне кажется, что ... … に思える = У меня есть впечатление, что ... 私には … の印象がある）

ロシア語の実用面においては、上に見られるような左右の言い換えは有意義な学習項目であると考えられる。それは、意味から形式を求める、いわゆる命名論的なアプローチによって表現を相当程度 網羅的に求めることができるだろう。

上にある「казаться 思える — впечатление 印象」を語形成、派生と呼ぶのにはやや抵抗

感があるかもしれない。が、派生については、そもそもクブリャコーワが『言語学大事典』に書いている次の文章が目を引く（Кубрякова 1998）。

> 派生：
> ある言語単位（дериват）が、第一次的と考えられる他の言語単位を基盤に作られるプロセス …（後略）

「派生」は「語形成」よりも観察対象が広い。後者は語であるが、前者は語にとどまらず文などの派生を示すことがある。また、日本語においては、「派生語」こそ語学の専門用語であるが、「派生」そのものは専門性がない文脈でも利用できる、いわば普通の語である。まず、首都で登場したアイドルグループ（第一次）があり、それと似たようなグループが日本や世界の各地で活躍する … この現象は「派生」と名付けても自然である。この親しみやすい語義を考慮すると、授業でまず導入するべき概念がなにか、展望が得られるかもしれない。

参考文献

Антонова В. Е. и др.
2018　Дорога в Россию 2, 12-е издание исправленное. Санкт-Петербург.『ロシアへの道 2』
Апресян Ю. Д.
1974　Избранные труды. Том I. Лексическая семантика. Синонимические средства языка. Москва.
Ефремова Т.Ф.
1996　Толковый словарь словообразовательных единиц русского языка. Москва.
Земская Е. А.
1973　Современный русский язык. Словообразование. Москва.
Кубрякова Е. С.
1998　Деривация // Большой Энциклопедический словарь. Языкознание. 2-е изд. Москва.『言語学大事典』
Кузнецов С.А.
1998　Большой толковый словарь русского языка. Санкт-Петербург.『辞書 БТС』
Краткая русская грамматика.
1989　Белосусов В.Н. и др.; под ред. Шведовой Н. Ю. и Лопатина В.В. Москва.
Краткий справочник по современному русскому языку.
1995　Касаткин Л.Л. и др.; под. ред. Леканта П.А. Москва.『現代ロシア語ハンドブック』
Моисеев А. И.
1987　Основные вопросы словообразования в современном русском языке. Ленинград.
Раевская О. В.
1996　Части речи и словообразование во французском языке. Москва.『品詞とフランス語の語形成』

Тихонов А. Н.

1990　Словообразовательный словарь русского языка. В 2 т. 2-е изд. и стер.『ロシア語語形成辞典』

八杉貞利・木村彰一

1953　『ロシヤ文法』．岩波書店，東京